第46호 1920. 8. 18.

年中無休刊

京城日日新聞

社説

朝鮮の時局は

益々悪化する一方也

當局者は如何なる對應策あるか

（上）

[illegible] 吾人は是れより少しく朝鮮の近狀に就て語らん。

殖民地概説（三）

拓殖局編

第四節 殖民地の法制

第四節 關東州に於ける立法

[illegible]

（三）法律事項を規定したる制令（特に法律事項を規定したるもの）と内地の法律に依るべき旨を定めたるものとあり」の二種と爲すを得べし、猶は此の外に殖民地を通して法令の性質上同時に[illegible]ず施行せらるゝものあり、會計法[illegible]規、官吏恩給法の如き其の例なり。

第五章 殖民地の財政

第一節 歳計

殖民地の歳計に就きては國費と地方費とを區別することを要す國費に在りては其の歳出入豫算は帝國議會の協贊を經ることを要するに反し地方費に在りては其の豫算を設定するの權限は殖民地の政府に存し帝國議會の干與を要することなし、本節乃至第三節の記述は主として國費に關するものにして地方費に就きては之を後節に叙説すべし。

[illegible]

地方制改正（七）

[illegible]

山口警察課長

[illegible]

逆流（十六）

森 啟波

創作

[illegible]

通俗平易

國民法律

[illegible]

本場吳服商

京染悉皆

越後屋商店

野水清太郎

大正九年度

西鮮圍碁大會

○日時 大正九年八月廿九日正午より

○場所 平壤黃金町大同館にて

○會費 金貳圓五拾錢也

○賞品 壹等 金側懐中時計 貳等 銅[illegible] 參等 碁盤及碁石 以下第一第二第三軍共各四等より十等

○番附 本會出席者を以つて大正九年度西鮮圍碁番附を作製贈呈す

○申込 平壤山手町中丸好太郎方へ申込まれたし

○地方 地方よりの出席者には特に種々の便宜を圖る

主催 京城日日新聞西鮮支社 釜山日報社西鮮支社

大邱七星町

興陽農場主

大塲鐵象

朝鮮大邱府錦町一丁目

穀物貿易

商光成友三郎商店

朝鮮大邱府幸町一番地

朝鮮中央鐵道株式會社

大邱府

武尾禎藏

祝創刊

大邱錦町

永井幸太郎

朝鮮及滿洲

八月號 第百五十八號出づ

一部定價金五拾錢 送料金貳錢五厘

● 國民思想の將來 …… 文學博士 椎尾辨匡

● 源氏物語と現代思想 …… 富田文學士

● 財界の前途 …… 法學博士 小林丑三郎

● 財界の恐慌救濟と教訓 …… 法學博士 河津暹

● 朝鮮工業の現況と有利事業 …… 工學博士 三山喜太郎

● 朝鮮最近四十年史 …… 李王職次官 國分象太郎

● 帝國議會評 …… 萬二千峯主人

▲東京より

▲新朝鮮制度

● 朝鮮の雨 …… 理學士 平田德太郎

● 虎列拉病に就て …… 女醫 戸川錦子

▲仁川だより

▲仁川名士訪問記

● 薩哈嗹占領と米國

● 依然として妄動しつゝある朝鮮人に與ふ …… 釋尾旭邦

● 朝鮮地方制度の改正

▲滿蒙問答

▲時事日誌

● 滿洲成金物語（三）

● 名士の應接印象記（三） …… 老虎生 曉谷生

▲風聞録語

▲事業界

文藝

● 逗子と葉山遊記 …… 旭邦生

● 沼津の海岸より …… 高木生

● 亡き愛子を吊ふ …… 井上收

● 破戒（下） …… 村上曉谷

▲漢詩 ▲短歌 ▲俳句

京城南山町一丁目

朝鮮及滿洲社

電話 二五〇番

振替 一三一番

見よ見よ試し見よ優秀なる

の如何に使ひ心地良しきかを

京城本町四丁目（交番前）

（石鹸金物鈴小間）

眞繼商店

（店主 眞繼友次郎）（電話三一五三番）

內外電報

過派騎兵ワ市侵入

勞農政府騎兵部隊は既にワルソー市外に侵入到着せり（巴里來電）

伊國無政府黨蹶起

伊太利各所に於て無政府主義者蹶起し放火を行ひ動亂勃發の形勢に陷れり（羅馬來電）

英艦北露沿岸集中

英國艦隊はフインランド灣ペトログラード沖に集合しつゝあり（巴里來電）

波露協議案內容

英國新聞紙は伯林にある勞農代表コックス氏は一面[illegible]に語つて曰く目下協議中の問題は（一）波蘭に對し根本的勝利を期する事（二）日本との衝突を平和的方法を以て解決する事之が爲め相當利權を日本に與ふる事（三）黑海問題に對し露國の支配下に置く事之なり（東京來電）

對露問題紛擾
——英佛の意見疏隔——

佛首相ミルラン氏は曰く聯合國間には對露問題に關し意見の相違ありたるも多少は之無しと然れども倫敦に於て勞農政府代表カメネフが提出せる對波講和條件に關し英國政府は波蘭政府に對して之が承諾を勸誘せるに拘らず佛國政府が斷然之を拒絕す可しと波蘭政府に通告せる事實を見れば聯合國間に分裂の存する事は爭ふ可からざる事實なり

ウランゲル將軍承認

は首相ミルラン氏の知せざる所なりと報[illegible]を下し居たるが其後の情報に依り全く[illegible]るの事明白となれり即ち佛國政府は[illegible]なる注意を以て四國の形勢を考察せる後始めて英首相の政策に相背馳せる政策を斷行す可く決せるなり元來米國政府の對露方針に關する聲明書の要項は佛國政府がウランゲル將軍承認問題を議せる閣議開催前に佛國政府の手に到達し居り佛國政府は之を以て米國が英國の對露策に反抗す可く約束は背さざるも少くとも佛國の政策を援助する意味あるものと解釋せるなり事實上佛國首相ミルラン氏は

從來英國首相の權謀

に盲從して之を十二分に觀察せしも佛國が歐洲の天地に孤立する能はざる狀況にあるを知るを以て久しく英國と分離さるるを躊躇し居りしものなるが愈米國の有力なる後援を得る事確實なるに至つて茲にミルラン氏は斷然英國と相反するの行動を執る可く意を決せるなり而して外交社會に於ては今回の英佛二國の乖離を以て曩のルール地方問題に關する英佛の衝突あるも遙に重大なるものなりと想像し居れるが事情斯の如くなればミルラン氏とロイドジョージ氏が十五日ブロニユーに於て會見するも兩氏の間に完全なる妥協を見るは頗る覺束なしと信ぜられつゝあり英國は現在の強硬なる政策を把持す可く佛國は飽迄米國の後援に依頼す可しと云ふ可し今後の形勢は一に懸りて過激派の行動如何にあり（紐育來電）

伊太利外相時局觀

羅馬特電に曰く本月六日ジヨリツチ首相は同國下院に於て對英同盟條約を議題として外交に關する演說をなせり同外相は嚢にスパー會議終了後議會に於て演說をなしたるが其の際は時機問題の成行說明に止められしを以て今回の演說は新內閣初めての外交方針發表として一般の注意を集めたり其大要左の如し

[illegible]

露國提出條項峻嚴

（東京來電）

英勞農政府承認乎

英佛首相會商延期

英國首相は佛國政府との間に[illegible]通牒を交換したる結果今週中は佛國首相と會商せざる事に決せり（倫敦來電）

南北和議準備進捗

李純氏は未だ北方總代表たる事を承諾せざるも北京政府は（一）南北和議に關し和議會議地を南京に移す可し（二）正式議和を開かず個人の折衝に任す（三）中間に人を置かず南北兩方と折衝す可しとの三箇條の提議を受けたり（上海來電）

新內閣財政整理

新內閣は財政整理を斷行し[illegible]

米議員演說喝采

米國議員團は十四日中華[illegible]に臨み學生の歡迎を受け[illegible]

米議員熱狂的歡迎

（北京來電）

軍事輸送拒絕

愛蘭自治預備

英國內閣會議は愛蘭問題を解決する爲め愛蘭自治を與ふ可き提案をなすに決議せり（倫敦來電）

蒙古王侯慰撫

蒙古王侯等は目下來京せる[illegible]政府の歡迎を受け[illegible]大總統令にて「中央政府は蒙古王侯を優遇す可し」と慰撫せり（北京來電）

露支通商交涉

勞農政府代表ジユリ[illegible]

新部隊通過す

（東京來電）

陸海軍異動

十六日附を以て左の異動あり（東京電話）

任海軍大將　海軍中將　黑井悌次郞
同　野間口兼雄
同　栃內曾次郞
補舞鶴鎭守府司令長官　海軍大將　佐藤鐵太郞
補海軍將官會議々員　海軍大將　黑井悌次郞
任海軍大將　海軍中將　井出謙治
補海軍省軍務局長　海軍中將　堀內三郞
補海軍大學校長　海軍少將　加藤寬治

早川氏入閣乎

司法官大更迭
九月上旬發表

井上大將敍位

快速客船建造

三相山公訪問

福密會議開催

熊克武成都退却

（北京來電）

依然不穩

朝鮮國境の形勢は[illegible]

鮮支國境取締

常に冷淡

不利益を

歐米電化現狀

驛屯土賣拂に就て（下）
水口稅務課長談

朝鮮鹽自給策

米國		
瑞西		
瑞典		
白國		
英國		
獨逸		
佛蘭西		
伊國		
日本		

中平氏講演會

有望な鹿の牧畜
鮮滿及西伯利に好適事業　飼育簡易にして收益莫大

諸兵聯合演習

道知事會議

海州派遣隊歸還

前田司令官挨拶

宇都宮大將告別宴

風塵錄

商況

朝鮮銀行券
內地金利
京城手形交換
上海株式
京城株式
京城株式現物市況
古澤豐記商店

京城市場出來値（十七日）

仁川期米特電
八月十七日前場

大阪期米特電
八月十七日後場

東京期米特電
八月十四日前場

宮林泰次商店

內地へ印刷機械工至急入用
但し熟練者に限る
京城日日新聞社

有田長

社告

京城府內に於ける本紙販賣部は本月一日より居留民設置の京城支社內に於て直營販賣致候間此段謹告候也
京城日日新聞社

제46호 1920. 8. 18.

汗と垢に汚れたる旅裝の儘の中平大朝特派員（向つて右が中平氏）

單身危地に入れる 暗黒露西亞の探險者

大朝特派員中平氏突如入城す

身に纏へるは勞農服 破れたる雜袋 烈日に晒されたる鋼鐵の如き其顔色

快男子何物を齎し歸れる

急遽再び

突破する

侵入を企

三等列車に 實に慘澹

斯様な食

意氣天を

肉類等も

共産主義

平南道廳の爆撃

幸に人畜に死傷なかりしも 遂に犯人を逸す

大爆音 起り全市を震撼せし

第三部

急遽歸阪

東宮殿下 少佐に御進級

皇太子殿下には大正五年十月三十日にて陸軍大尉並に海軍大尉に御進級あらせられたるが、來る十月三十一日の天長節祝日を以て恰も御滿二ヶ年に達せらるべきを以て當日陸軍歩兵少佐並に海軍少佐に御進級あらせらるゝ由に拜承す（東京來電）

怪しき

精巧なる爆彈

コレラ講座

全市虎疫の巷と化す 京城市民は奈何にして此危險を免れんとする

朝鮮虎疫の回顧（下） 千葉總督府醫院長の談

餘波を被

頻繁なる

滿鐵沿線

患者總數

秦斗さ

流行に

コレラワクチン

起原及び其種類效能 發見迄の苦心の數々

免疫性

反對者

自己の

凶暴無比なる 暗殺團の掃蕩經過

驚く可き「七可殺」の宣言と企劃 血に餓たる敢死隊の妄動を見よ

惡虐積んで山の如き 不逞一派の末路近づく

―警務局發表―

暴彈其他の兇器を用ひ

敵魁及び長 鬼を撃殺し

無道殘虐なる 實に言語に絶す

爾來兇徒は 遠く逃竄し

暗殺富豪脅迫の方針

猫（六） 京奴

百七八十名の 群集旅館を包圍す

時局柄大事勃發と大騷ぎをしたが 實は些細な内鮮人の喧嘩が原因

東大門署管内は稍々下火

入院さから 派出所に投石

衣帶を解き 犯人を追跡

駐屯兵に

不埒なる醫生 醫師法違反で告發さる

銃器三挺 火藥若干を鹵獲

府内虎疫遂に五百

氣勢稍々衰へたれど 尚安心なり難し

鎭島にも發生

社告

大正九年八月十八日 京城日日新聞社

小栗判官照手姫

旭亭桜山口演

(四十六)

〇懐しや夫婦の再会

演藝案内

大正館

江戸龍

人間タンク

赤垣源藏

喜樂館

塙直之巡遊記

ナムバーワン

戀慕流し

朝鮮郵船

元山出帆

釜山出帆

木浦出帆

仁川出帆

朝鮮郵船株式會社

釜山支店 電話一八四番

永樂醫院 京城永樂町

金クサリ 不二商會

最上清酢 三矢酢釀造株式會社

刺繍講習 京城刺繍講習所

移轉 琴、三味線 米川樂器店

六百五圓 第七回賣切御禮 停滞殘品見切 玩具 内田玩具店

男女毛深き方へ 害なき最新發見の毛生止藥を詳報す

東京工科學校 生徒募集 無試驗編入

補血強壮劑 ペプミン

ホワイト社 李王家御用 加藤誠治

經濟的貸自動車 京龍自動車部

虎疫ノ豫防ニハ蠅ノ驅除ガ肝要也 朝日蠅取散 朝日はいとり紙 有效確實也 發賣元 東洋製薬株式會社

月收百圓 有利事業 特約店募集 京城太平通二丁目 大陸之實業社

優等清酒 富安本店 富安支店

田中丸病院 京城西小門町

健康は人世第一の幸福 高麗参精 釜山日報京城代理部

前ノ豪雨ニ會シ 絶對ニ雨漏ナキ 特許セメント瓦製造株式會社

新刊 蒙古見物

蒙古通信社長 眞繼義太郎著

三六版 總クロース製 美本箱入 口繪寫眞三十面入 本文ポイント組三百十二頁 定價壹圓七拾錢 送料六錢

三千年前の太古時代、原始生活に分け入つたやうな風物と、情調の好修練である蒙古旅行は人生行路の一部分としての蒙古に對する偽らざる著者の感激と、批判とを赤裸に告白したる藝術的作である。

人生としての蒙古＝佛教國としての蒙古＝藝術國としての蒙古＝原始國としての蒙古＝戀を中心としての蒙古

蒙古の旅行より

取次店 京城太平通二丁目九五 釜山日報京城代理部 電話三一五三番

蠅族の掃滅 虎疫の豫防 蠅取紙新荷特別提供 米國製大判貳枚合せ(タングルフート)参萬部限 青木堂支店

眞繼雲山著 車窓

三六版箱入絹張美本ポケット型三百十四頁 本文ポイント活字總ルビ附 定價金八拾五錢 送料六錢

(内容目次)

思ひ思ひ

日記帳

スケッチ五篇

獨り言

戀の哲學

無弦琴

或る新らしい女の戀と私

女に振られるの記

私の知つてる夫人の事ども

或る若き夫人の死

十年振りの旅

運命に引摺られて

新須磨の浦

蒙古再遊記

洗心遊記

雪の樺太探險

特種部落を訪れて

暴徒討伐の頃

四道將軍の御陵墓か

◎取次店 京城府太平通二丁目 振替京城五三三六番 釜山日報京城代理部 電話三一五三